自然と建築のあいだ

伊原 慶

同じ品種の２本のパセリは同一であり、まったく見分けが付かない。
植物の親子が同一であるということは、各々のパセリは互いに交換可能であり
生命というよりはむしろ記号、あるいは幾何学的図形に近い。

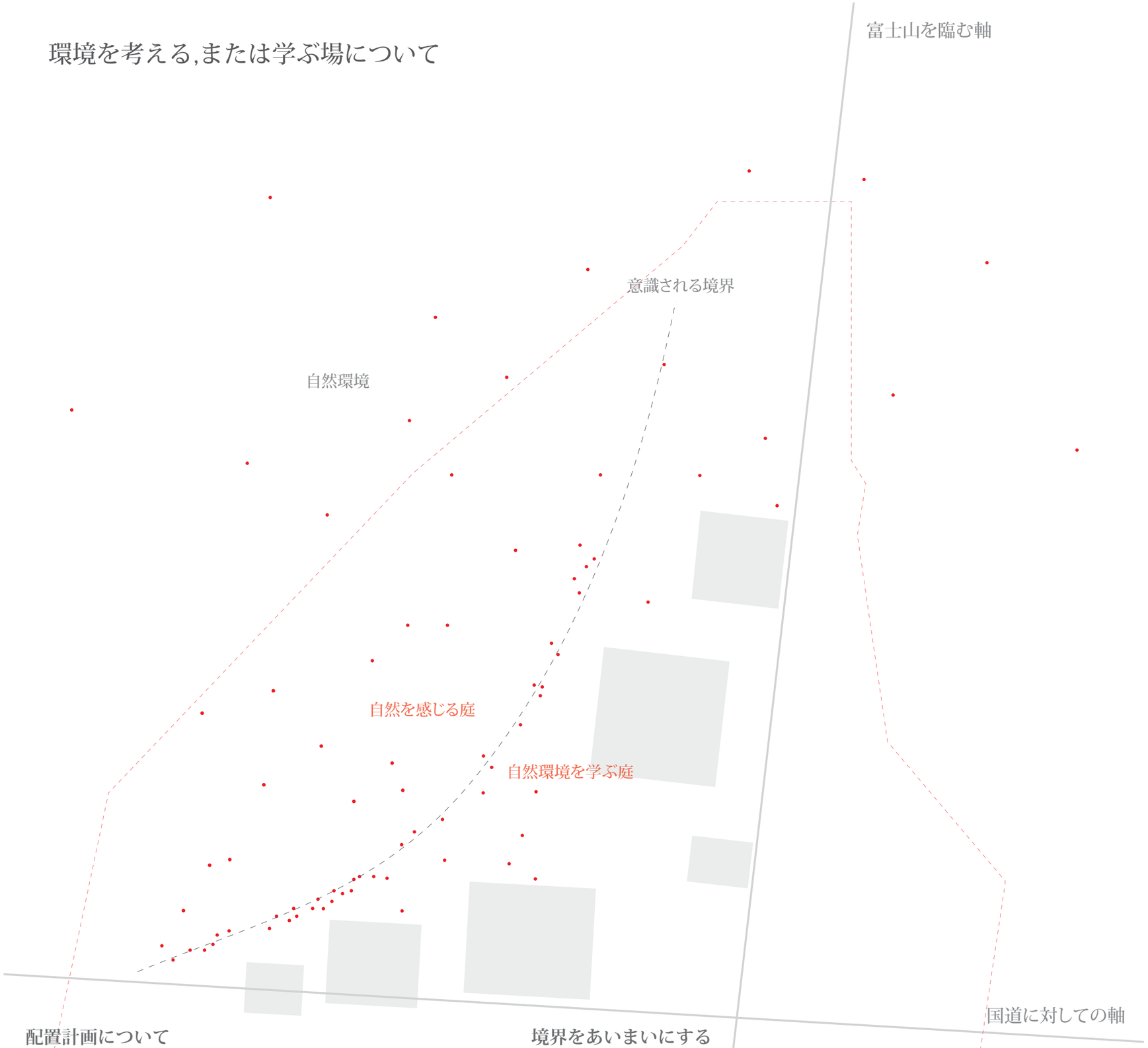
レヴィ・ストロース

自然、環境、または人間の身体を考える際に、それは生態的に不ぞろいであり
ひとつひとつがある種の揺らぎを持つものといえる。
つまり記号、あるいは幾何学では無論ない。

そのような“不均質”の身の回りの環境の中に、ある“整然とした”なにかを
見出すことで“均質”とは定義されるのではないか。

広大な自然の中で環境にかかわる建築を考える。
周辺の自然と中の人々の営みがとても緩やかにつながっていく、
不均質と均質・ふぞろいと秩序の境界のような建築を提案します。

環境を考える,または学ぶ場について



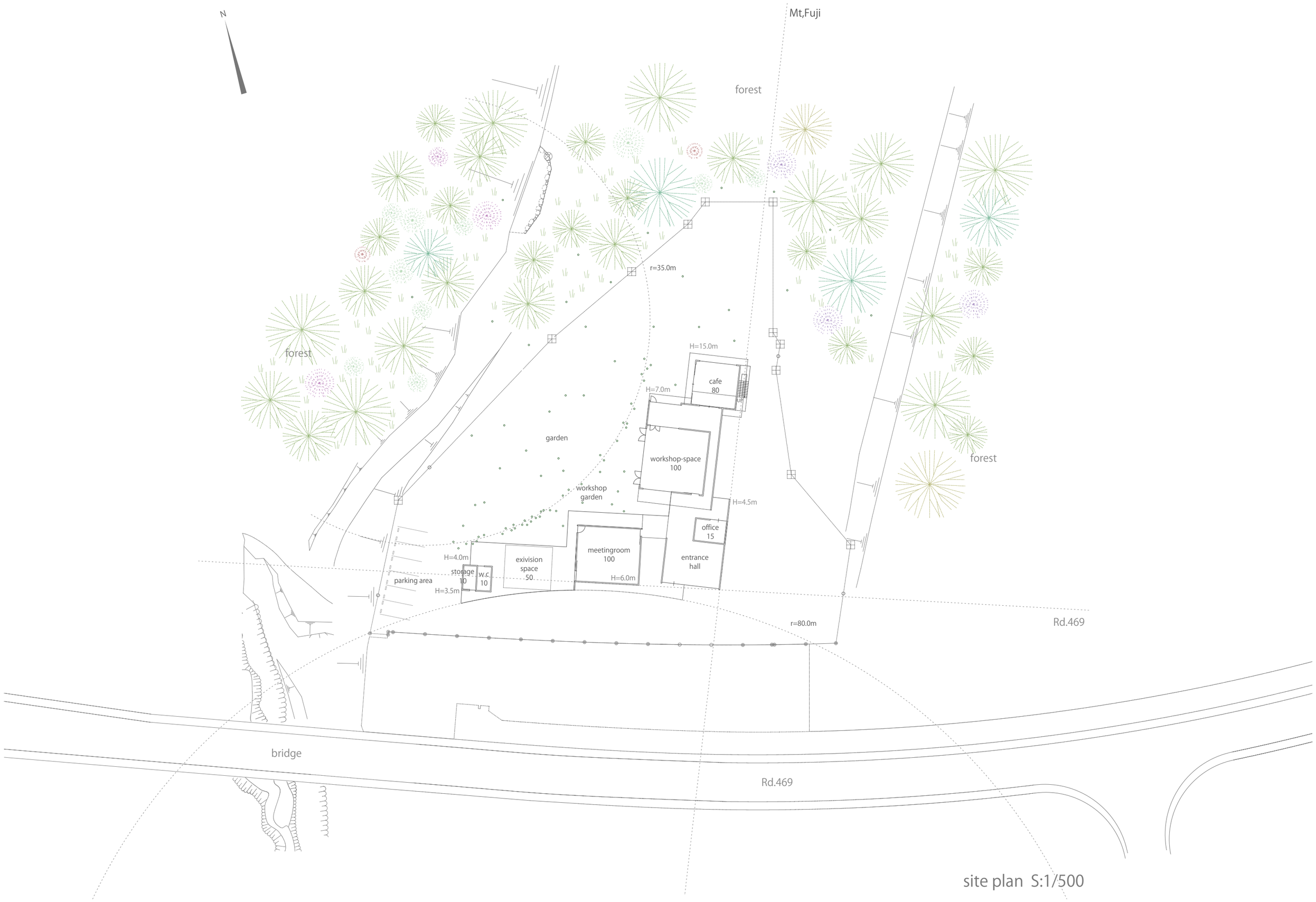
配置計画について

・ボリュームは２つの視線の軸をよりどころとし配置する。

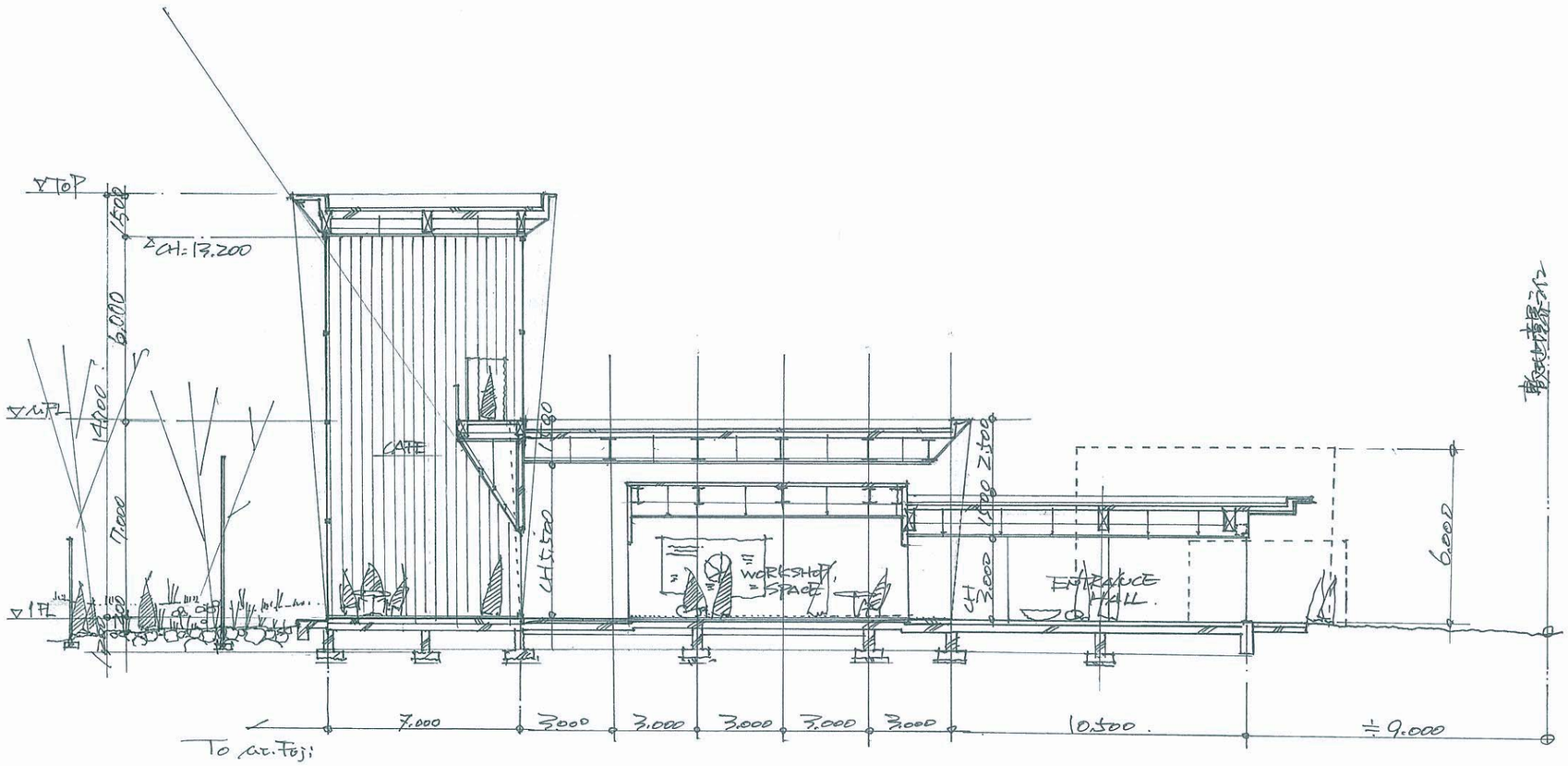
・必要ボリュームは、視線の貫通や誘導を意識して分散配置。

境界をあいまいにする

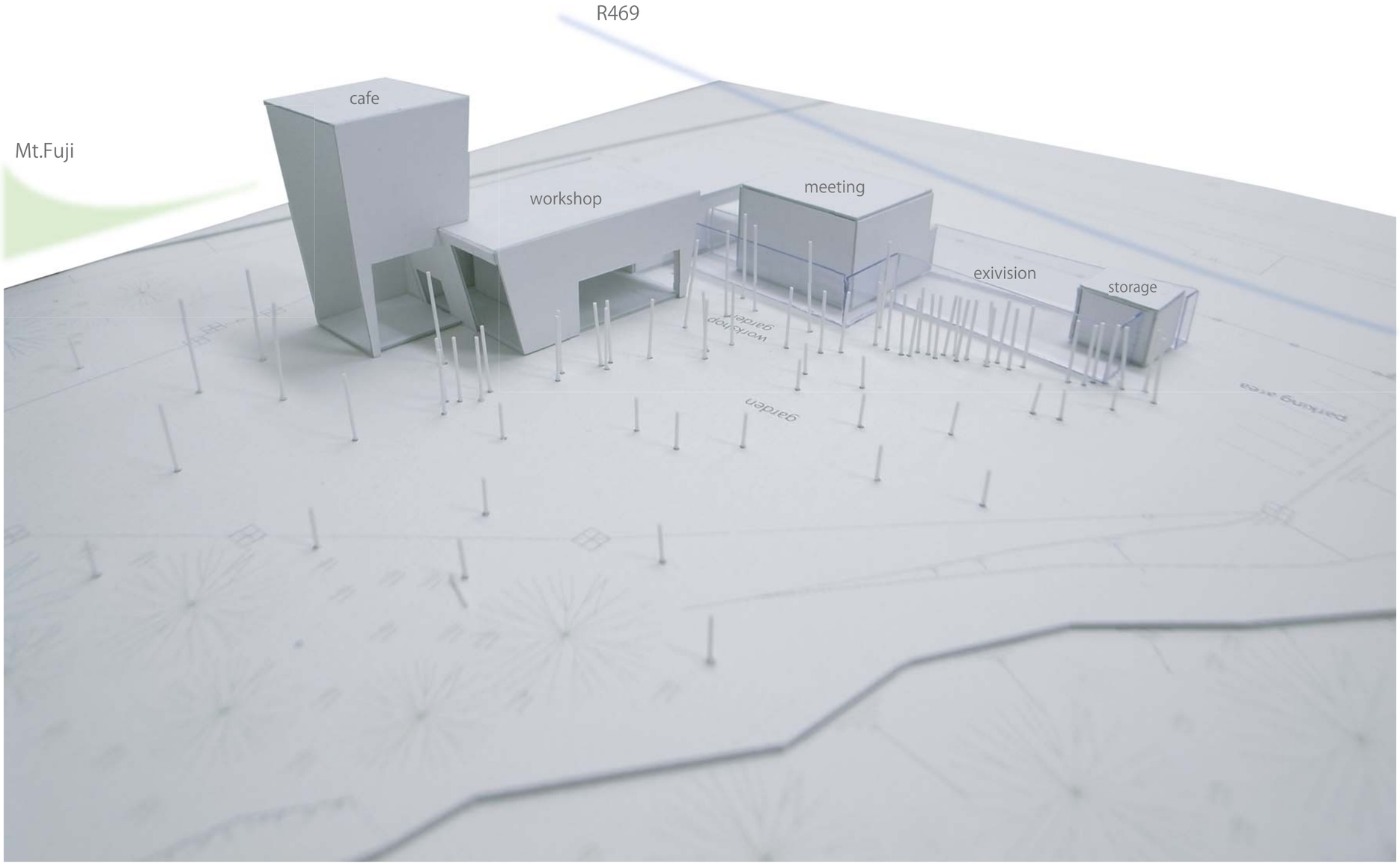
・“不均質な”自然環境と“均質なものとして”の建築の境界を溶解する。木々をメタファーにした列柱の粗密によって気配や視線を緩やかに分離していく。



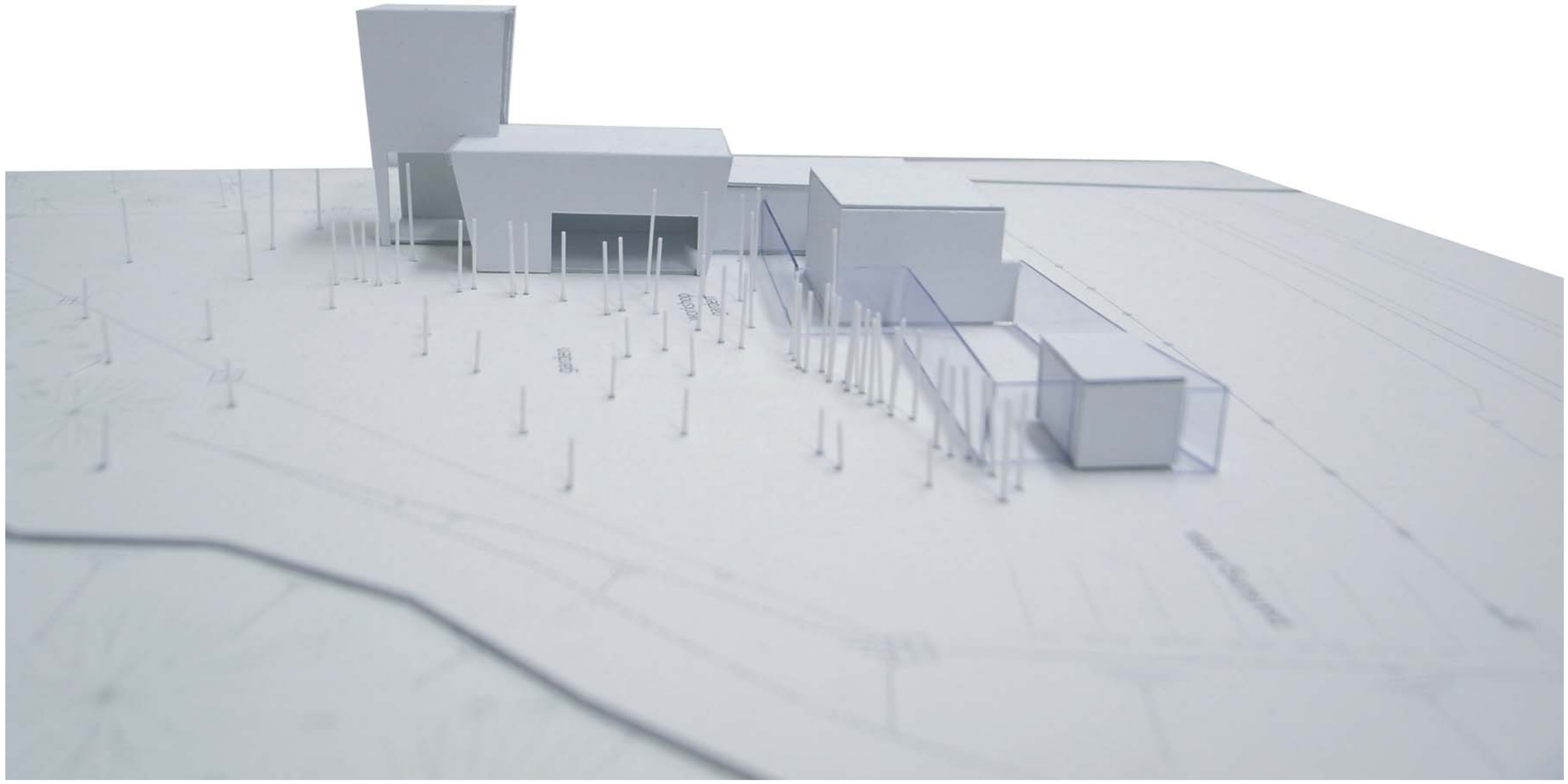
site plan S:1/500



Section S:1/200


R469
cafe
Mt.Fuji
workshop
meeting
exivision
storage
workshop garden
garden
parking area

北西から見る



西側から見る

北側から見る